

**たたら製鉄を礎に560年
人と自然の共生をテーマに
事業を拓き次世代へつなぐ**

島根県雲南市吉田町、松江市などを拠点に、山林事業から「食」と「住」に関わる事業に領域を拡げ、新産業創出に挑戦する《田部グループ》。住宅の新築・リフォームの設計施工、造園・外構工事、公共施設の環境緑化工事などを行う《株式会社たなべの杜》。ケンタッキー・フライドチキンをはじめ、ピザハット、マネケンと、世界的外食産業のFC運営を中国5県、大阪、兵庫で展開する《株式会社TANABEグループキッチン》。保有する山林の維持管理をはじめ、平飼いのこだわり卵、特産食品の製造販売、吉田町の地域開発・活性化事業を行う《株式会社たなべたらの里》、そして酒類の醸造販売を行う《株式会社田部竹下酒造》と、グループを構成する4社は2019年以降に新設されているが、どれもグループの主体となる《株式会社田部》が取り組んできた事業、あるいは縁のある事業を引き継ぎ、さらに発展させるために分社化した形だ。

たたら製鉄とは、粘土で築いた炉内に「ふいご」で風を送り、原料の砂鉄と木炭を燃焼させ、純度の高い鉄や鋼を取り出す製鉄法。島根県南部の中国山地一帯は、良質な砂鉄、清流、森林に恵まれ、古代から野外でのたたら製鉄が盛んだった。田部家の祖先は、鎌倉時代の1246年、紀州熊野から旧吉田村に入部。室町時代の1460年、初代・田辺彦左衛門が、川で砂鉄を採り製鉄を始めたのが、現在の田部グループの事業活動の起点だ。その後、戦国時代の乱世には製鉄ができず、一族は今の広島県に逃れるが、江戸時代前期、6代目が吉田村で鉄づくりを再興。最新の踏板ふいご、製鉄を通行する屋内施設や鍛冶場を開設して鉄の生産量を高め、企業たたら経営を確立した。一方、たたら製鉄には大量の木炭が必要で、森林資源の安定的な確保が命題となる。田部家は、保有する山々で広葉樹を伐採する計画を立て、数十年かけて元通りの豊かな山になるという、自然の循環に合わせた資源調達を行った。山を育み、守りながら営んだ製鉄事業の根幹には、人と自然の共生。があり、永い時代を経ても変わらない。現在の山林業、木材生産、住宅事業、特産食品の開発など、グループの事業に息づいている。

たなべ
田部グループ

一本の木を育てるように
未来を見据えながら地域と歩む

20
LEADING COMPANY



14



11



12



13



7



9



10



8



5



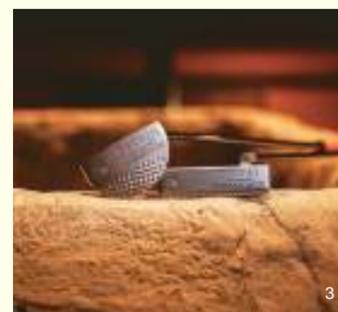
4



6



1



3



2

1 復活したたたら操業にのぞむ田部長右衛門代表 2 製鉄炉に風を送りながら木炭と砂鉄を交互に投入 3 操業復活を機に和鉄のゴルフパターを商品化 4 建築事業では建物のエクステリア・造園・植栽も自社一貫で手がける 5 2023年に誕生した新銘柄。銘柄名は竹下本店時代の初代蔵元・竹下 理八氏の名を冠している 6 掛合町の町並みの一角にある《田部竹下酒造》 7 たなべ森の鶏舎の《平飼卵》は、地元はもとより東京の高級小売チェーン店にも出荷 8 ピザハットの店内で焼き上げられたピザ 9 11 平飼卵と地元食材で里山スイーツを開発製造 10 KFCのオリジナルチキン 12 2024年に道の駅たたらばき番地にオープンした《金ちゃん亭》 13 2024年にKITTE大阪にオープンした《出雲しめなわや》。中浦食品との共同経営で、山陰地域の特産品と銘品を取り揃えている 14 フォレストアドベンチャーを運営し、森林空間の有機的な活用に挑む

**オリジンの山を起点に
愛される里づくりを目指す**

田部長右衛門代表は、家業を継ぐとともに、2016年、《山陰中央テレビジョン放送株式会社》代表取締役社長に就任。広告代理業や情報通信事業などを展開する《TSKグループ》を束ねている。「今後は田部グループとTSKグループ、両輪の翼で地域、島根の発展を担ってきたい」と語る。田部代表が、次の100年を見据えて社員と取り組んでいるのが、たたら製鉄の歴史とともに紡いだ山を守り育み、そこから生まれた文化や暮らしの豊かさを次世代につなぐ「たたら里づくり」だ。16年には「たたら事業部」を立ち上げ、18年に、吉田町で約100年ぶりに「田部家のたたら吹き」を復興させた。翌19年には、町内の広さ3らへフタルの山に、7000本の山桜を植樹している。「木を育てるだけでなく、林業ではない」と話す田部代表。山林部社員の発案から23年春に開設した《フォレストアドベンチャーたたら里》は、またたく間に認知が広がった。若い家族連れだけでなく、県内外の企業から社員研修の場にと、貸し切り利用されることも多い。「広島や愛媛からのお客様も多く、フォレストアドベ

**人を想い、常に革新を続け
地域を担う企業へ**

丸田新炭有限会社を創立。翌年には、現在の日新グループの母体・日新林業株式会社など複数企業を創立し、山林開発、構造材の合板製造など、島根の林業振興に貢献。後の自社の建築・住宅事業進出へつながっている。また、私財を投じて松之舎病院（現在の県立中央病院の前身）を設立したほか、大手新聞社に買取されかけていた地元新聞社を合併して島根新聞社（現・山陰中央新報社）を設立。地方紙の育成に努めた。続いて1959年に家督と社長を継いだ24代は、69年に島根放送株式会社（現・山陰中央テレビジョン放送）を設立し、メディア・IT事業へ進出する一方、72年には日本ケンタッキー・フライドチキンとFC契約を結んだのを契機に、外食産業へ挑戦。さらには96年には吉田町に《たなべ森の鶏舎》を開設し、平飼卵の生産や特産食品開発など地域の農産・食文化振興に道を拓いた。そして、現代。先代から、自然と文化を残しながら、郷土の発展を図るという、田部家の使命を引き継いだのは、25代当主・田部長右衛門氏（45）だ。大学卒業後はフジテレビ勤務を経て、2010年から現・田部グループのトップとして経営に関わる。15年、36歳で田部長右衛門を襲名した。

田部長右衛門代表は、家業を継ぐとともに、2016年、《山陰中央テレビジョン放送株式会社》代表取締役社長に就任。広告代理業や情報通信事業などを展開する《TSKグループ》を束ねている。「今後は田部グループとTSKグループ、両輪の翼で地域、島根の発展を担ってきたい」と語る。田部代表が、次の100年を見据えて社員と取り組んでいるのが、たたら製鉄の歴史とともに紡いだ山を守り育み、そこから生まれた文化や暮らしの豊かさを次世代につなぐ「たたら里づくり」だ。16年には「たたら事業部」を立ち上げ、18年に、吉田町で約100年ぶりに「田部家のたたら吹き」を復興させた。翌19年には、町内の広さ3らへフタルの山に、7000本の山桜を植樹している。「木を育てるだけでなく、林業ではない」と話す田部代表。山林部社員の発案から23年春に開設した《フォレストアドベンチャーたたら里》は、またたく間に認知が広がった。若い家族連れだけでなく、県内外の企業から社員研修の場にと、貸し切り利用されることも多い。「広島や愛媛からのお客様も多く、フォレストアドベ

ンチャー自体は好調ですが、付帯設備も整えたい」。24年中に森の中のカフェ、町内に江戸期の屋敷跡をリノベーションした宿泊施設（5棟）を開設予定だ。また、吉田町の玄関口の道の駅たたら場町番地では、《たなべ森の鶏舎》が生産する平飼卵の放牧のこだわり卵を使ったスイーツを販売しているが、24年4月、新たに《金ちゃん亭》をオープン。たまごかけご飯はもとより、親子丼や卵の黄身がのったカレー丼などの軽食が好評で、今後は多店舗展開も視野に入れている。

2022年秋、吉田町の隣の掛合町に創立した《株式会社田部竹下酒造》では、翌年の試験醸造を経て、23年に初搾りとなる「理八901純米吟醸」「理八1801純米大吟醸」を送り出した。冠名の理八とは、150余年前に田部家が酒づくり事業を委ねた竹下家6代、理八氏の名前にちなむ。新鋭の杜氏・濃崎良太さんを迎え、「新しい味、世界に通用する酒づくりを目指す」と決意していた蔵元でもある田部代表。反響は高く、国内では早くも品切れで、次年度は増産する予定だ。

100年後の未来を見据えながら、山を起点にさまざまな分野で革新を続ける田部グループ。地域に寄り添い、地域とともに歩んでいる。



田部グループ

事業内容

林業、飲食業、建設業、製造販売業他

創業 昭和21(1946)年11月25日

代表者 代表取締役 田部 長右衛門

社員数 2279名(男1156名 女1123名)

本社 島根県雲南市吉田町吉田2407

電話 0852-62-2539

採用エリア(勤務地)

●株式会社田部、たなべたたらりの
たなべの社、田部竹下酒造
松江市、出雲市、雲南市

●TANABEグローバルキッチン
松江市、出雲市、大田市、益田市、
米子市、倉吉市、鳥取市、広島県、岡山県、
山口県、兵庫県、大阪府

採用区分

新卒採用

キャリア採用

採用担当者からあなたへ

田部グループの各会社で
求人をしています。明るく元
気で素直な方、そして目標
に向かって意欲的にチャレ
ンジしたい方を求めています。
未経験者も大歓迎。先輩社員が丁寧
に指導しますよ!



人事部
坪倉 正さん

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0852-60-2539

採用直通 E-mail

tubokura@tanabeco.com

公式サイトは
こちら



株式会社 たなべたたらりの里

田部グループの原点、雲南市吉田町を起点に、
山林資源を活用した循環型コミュニティの再生をめ
ざす。バイオマスボイラーでの山林資源の有効活
用などに取り組む「山林事業」、たなべ森の鶏舎、
奥出雲前綿屋またまごを運営する「特産事業」、
たたら製鉄総合プロジェクトを行う「たたら事業」、
フォレストアドベンチャーを運営する「地域開発事
業」などを展開している。

山林部の今岡竜希さんは、島根県立農林大学校
林業科の出身。同社に入社を決めたのは、スギや
ヒノキといった木材の素材生産だけでなく、サクラ
やクリなどの広葉樹を植え、一般の人も山に呼び
こむ事業を行っているのが魅力に感じたからと話
す。毎日班単位で車移動しながら、所有林の保全
管理を行っている。「職場の先輩方は良い人ばか
り。危険が伴うような作業は無く、自分の意見も
聞いてくれます。林業は何十年も先を見据えてい
く仕事ですが、木の苗の周りの草をきれいに下刈
りできた時など、その場その場に達成感がありま
す」。子どもの頃から、安来節や神楽、楽器演奏
が好き。夢は森の中の音楽ホール建設だ。



山林部
今岡 竜希さん(21)
入社1年目



株式会社 田部竹下酒造

2022年、雲南市掛合町に誕生した酒造会社は、
江戸時代に田部家から竹下家に譲った酒造り事業
を、再び引き継ぐために創立された。美しい自然
と紡がれてきた歴史をベースに、田部家と竹下家
が守り続けてきた“ものづくり”の魂。それを次世代
へつなげ、日本全国、そして世界に届く日本酒を
造るため入社したのが杜氏・濱崎良太さんだ。5
人の蔵人ともに新しい味の日本酒造りに挑戦中。2
年後を目標に、新たな酒造施設の建設計画も進
んでいる。

福岡県生まれの濱崎さん。岡山の大学・大学院
で微生物を研究し、そのまま日本酒造りの道へ。
岡山、愛知の蔵で、経験を積んできた。初年度は
4種の異なる酵母を用いて試験醸造酒を発表し、
いきなりの高評価を得た。その経験をもとに製法
をさらにブラッシュアップし、新たに「理八」ブラン
ドとして再リリース。理八も県内外から反響が高く、
出荷が間に合わないほどだが、濱崎さんは頰
をゆるめない。「目指すのはシンプルに旨い、また
飲みたくなる酒。造り方、配合を試行錯誤しなが
ら、蔵元が想う酒質に近づきたい」と抱負を語る。



杜氏
濱崎 良太さん(35)
入社3年目



株式会社 たなべの社

永年の山林、木材、造園外構事業で培ったノウハ
ウを生かし、“木と生きる、木と暮らす”をテーマに、
快適で健康的な住まいづくりを提案。営業部、建
築部、設計部、環境緑化部、不動産部で構成さ
れ、土地探しから新築・リフォーム住宅の設計、造
園設計、コーディネート、施工、管理まで、自社一
貫で行っている。

入社2年目となるインテリアコーディネーターの福
間心幸さん。「初めての経験が多く、覚えることも
たくさんあり、1年目はあっという間でした」と話
す。入社当初は経験も浅く、実践的なスキルもな

かったため、先輩にフォローしてもらいながら進め
ることが多かったという。最近では、内装(クロス・
照明・カーテン・家具)の提案からすべて任せら
れるようになり、やりがいや面白みを感じている。
また、ネットや資料には書かれていない先輩方の経
験値から教わる知識や技術が勉強になり、吸収する
ことが多いという。

「これからさまざまなことを経験する中で自分の得
意分野を見つけ、自分磨きもしつつ、業務に役立
つ資格取得に挑戦していきたいです」と将来の夢が
膨らむ。



設計部
福間 心幸さん(21)
入社2年目



株式会社 TANABEグローバルキッチン

広島市に本部を置く《株式会社TANABEグロー
バルキッチン》。中国地方を中心に、ケンタッキー・
フライドチキン(広島県、島根県、鳥取県、岡山
県、山口県)、ピザハット(広島県、島根県、鳥取
県、岡山県、大阪府、兵庫県、山口県)、マネケン
(島根県)と、世界的ブランドの外食チェーンをフラ
ンチャイズ展開している。

もともと接客業に興味があり、食べるのが好き
だったことから飲食店で就職を考えていたという
勝部瑞貴さん。接客業と飲食業を探る中で、同社
と出会った。「TANABEグローバルキッチンでは、

お客様に食を通じて幸せを届けられることができると知
り、ぜひ働きたいと思いました」と入社きっかけ
を話す。

勤務先の店舗は、学生・主婦のアルバイトを含
め、スタッフ全員、仲が良いのが自慢。「店舗の仲
間たちと、多くのお客様がケンタッキーにきてよかつ
たなと思うように、より良いものを目指して日々
働いています」。

店舗を訪れた人を笑顔で幸せにできるよう、ま
た、勝部さん自身も笑顔を忘れないよう、日々店頭
に立っている。



KFC事業部
勝部 瑞貴さん(24)
入社3年目



株式会社 田部

田部グループの総務、人事、経営戦略および経
営管理を行う《株式会社田部》は、松江本部と東
京事業部で構成される。東京事業部は、港区赤坂
を拠点に高級お取り寄せグルメの通信販売、創作
和菓子と茶房・こだわりの器の店《ヒガシヤ マン
マルノウチ》の運営などを行っている。

松江本部で経営企画を担当する一ノ渡真行さん
は、東京の大手建設会社に3年勤め、出身地の出
雲にUターン。当時募集を出していなかった《田部》
に自分から応募し、転職を叶えた。

「前職では、請負で建設事業が発生していました

が、田部グループは過疎が進む地方にあっても次々
と事業を生み出し、走り続けている。事業を軌道に
乗せるには困難なこともあると思いますが、私もひ
とつの力となって盛り立てていきたいです」と語
る。初仕事は、3年に一度の「田部グループ中期経
営計画発表会」の進行メンバーとして、グループ各
社の経営方針、目標などを吸い上げての資料づく
り。吉田町、松江、掛合町、広島と、グループ各
社の拠点にすべて足を運び、刺激を受けながら学
んでいる。「新入りの私が意見を言っても否定され
ることはなく、大らかな社風です」



経営企画
一ノ渡 真行さん(27)
入社1年目

